

C-64 手部計測値に関する一考察

昭和女大短大 刑部昭子 岡野 都 椎名米子○伊東順子 鈴木富子
阿部京子

目的 手部、長径9項目、径厚3項目と身長・体重の計14項目を計測し、年令的特徴並びに発育段階による変化の比較検討をすることを目的とした。

方法 昭和46年4月～6月、東京都内に在住する勤労者家庭の健康な女子・10才・13才・16才・19才各50名、計200名を対象として計測を行った。計測項目は、身長・体重・長径(手長・才I指掌側長・才II指掌側長・才III指掌側長・手背長・才III指基節長・指貫面より才I指先端…以上利手、才I・II指間より才I指および才III指先端までの長さ)・径厚(才III指最大厚・才III指中間厚・才III指厚)の14項目である。

結果 (1) 同年令間における身長・体重・手長の平均値についての有意差は、10・13才の体重は危険率5%で有意、他は有意差が認められなかった。

(2) 身長に対する手長は相関が高く、才I・II指間より計測した才I指および才III指先端までの長さについての相関は、年令によって高いものと低いものがある。手長に対する相関は才I・II・III掌側長および手背長とも高く認められた。